

## 第3回 国際政治・外交論文コンテスト

### 自由民主党 幹事長賞

#### 世界の中の日本 ―これからの50年―

富田 洋司

はじめに

50年前に今の世の中を予測できた人はどれだけいるのだろうか。科学技術の進歩が早く物質や情報の流れが速くて大量に行われる時代では、50年後は遠い将来であり、その予想は困難である。そこでまず「今までの50年」と「現在や近い将来の外交戦略」を考えた後に、「50年後の世界の中の日本」について思いを馳せていきたい。

今までの50年

今までの50年を一言で言えば、戦後処理と復興の50年であったと言えよう。わが国は「経済重視」「軽武装」「日米関係重視」のいわゆる吉田ドクトリンを基本路線に据え発展をしてきた。日本経済は朝鮮特需とその後の高度成長期に恵まれ、最近ではバブルの崩壊もようやく克服しグローバル化にも適応しようとしている。現在日本のGDPはアメリカに次ぎ2位である。世界のGDPの約12%を占め、立派な経済大国になっている。政治、外交面では、西側陣営の一員として、日米関係を重視し国際社会に参加をしてきた。近隣の国とも国交回復、戦後処理を着実にやってきたが、国際政治的にリーダーシップを発揮することは少なかった。終戦間もない頃は、日本の世界貢献を望む声は国際的には全くなく、むしろ国力を封じ無力化する事が最大の目標とされてきた。日米安保の体制も対等なものではなく、日本に何かがあったときはアメリカが日本を守るといった趣旨のもので、その逆は全く想定されていないものであった。時代が変遷し日本が経済大国になると、またアメリカを取り巻く環境が変化してくると日本もなにがしかの国際的責任を負わなければならないようになってきた。こういったことを示す象徴的な事項が1991年の湾岸戦争の時にみられた。日本の貢献が130億ドルといった大規模のものであったのにも関わらず“too little, too late”とアメリカを初め世界から極めて低い評価しかされなかったことだ。もっと速やかに日本の方針を示し、物的貢献だけでなく人的貢献も必要とされるようになってきた。すなわち、日本は戦後、無力な国から経済大国へと発展し、さらには他の国と同じくまたはリーダーとして意思表示し、積極的に国際貢献に関わらなければならない情勢となってきた。

現在と近い将来の外交戦略

現在と近い将来の外交戦略は多岐にわたっており、一括しての議論が難しいので「アメリカとの関係」「アジアとの関係」「世界との関係」について順に議論を進めていきたい。

アメリカとの関係は現在、経済・政治とも非常に良好な関係にあり今後もこれを維持していかなければならない。世界的な東西冷戦は終わりを告げたが、アジアにおいては、未だ共産主

義国、独裁国家が複数存在しており、国と国の緊張関係も依然続いている。安全保障の上からも、外交の後ろ盾としても日本にとってアメリカは非常に頼りになる国である。しかし日本が一方的にアメリカを頼るという関係ではなく、対等の立場で日米が協力し合うという関係に少しでも近づくべきであるとする。日米相互がうまく相補完するように責任を分担すべきである。経済的にも、日米の関係は良好である。日本経済の回復、構造改革、グローバル化は日米双方にとって評価できることであり、今後の日本経済の持続成長を後押しするものである。日本の国益について考えると日米関係の強化は、必要十分条件ではないが、是非とも必要な最重要項目である。現在のブッシュ政権は、非常に日本に友好的であるが、以前クリントン政権が親中路線であり日本との関係が円滑でなかった時のことを考えると、今後も積極的に日米関係の強化に取り組む必要があると思われる。

アジアとの関係強化は、非常に重要な問題である。地理的に近接しており日本の安全保障上も、また中国やインドの台頭により経済上も重要な地域であり、密接な連携が必要である。残念ながら、北東アジア、韓国、北朝鮮、中国では反日感情が非常に根強い。もちろん植民地時代や先の大戦で多大の損害と苦痛を強いたことは事実で、それについては心よりの反省と政府開発援助や国際平和維持活動を含め物的、人的貢献を行ってきた。しかし、これらの国々の国内および国外的諸事情で必ずしも正しくない歴史資料に基づいて、反日教育が行われている事も事実である。不戦の誓いを固くするとともに、誤った行為や、間違った認識については指摘し変更を促す必要があるとする。経済的には中国の成長はめざましく脅威すら感じる場面があるが、中国経済の成長によりわが国の経済が活性を取り戻してきたことも事実であり相互協調しアジア経済を牽引する道があるのではないかと考える。但し中国には反日教育の是正、尖閣諸島の領土権およびガス油田の開発問題、環境問題と日本が主張しなければならない案件が数多くあることも事実である。人的交流、情報交換、経済交流をより盛んに行うことにより誤解を少なくし、さらに日米関係や他のアジア諸国との関係を背後に平和的に諸問題を解決していく必要がある。最近、東アジア共同体という概念ができつつある。ASEANに日中韓の3カ国を含めた地域で、安全保障、経済面、文化面で強いつながりを持つようとするものである。アジアはEUと比較するとより多様な国家が存在し安全保障や文化的な面ではなかなか難しいと考えられるが、経済面では着実に東アジア共同体の方向へ進んでいるように思える。日本の繁栄は自由貿易によることが大きく、自由貿易協定(FTA)や経済連携協定(EPA)を多くのアジアの国々と結ぶように努力をしている。これを土台に東アジア諸国との連携を深め、アジアの一員として、またリーダーとして東アジア共同体を構想する事が日本とアジアの利益になっていくものとする。

世界との関係はさらに複雑である。世界にはもっと多種多様の価値観、宗教、文化が存在する。日本にとって非常に重要な事項は、それぞれの国や地域との直接協議により議論すべきとする。国際連合をはじめとする国際機関を介しての関与も重要となってくる。国際平和維持活動、人道的な国際救援活動、国際的な選挙監視活動にも、物質的、人的にさらに貢献していきたい。経済では世界貿易機構(WTO)、G8サミット、経済協力開発機構(OECD)等での活動に積極的に貢献していきたい。ただ国際連合についていうと、日本は安保理常任理事国になっていない。日本は、経済面を初め世界で最も国際連合に貢献した国の1つでありぜひとも今後、常任理事国になり一層効果的に国際貢献を果たしていきたい。

## 50年後に向けて

50年後の日本はどうなっているのだろうか。現代社会のように変動の激しい時代には予測が難しい。むしろ日本の理想とする国の姿はどのようなものか、また世界はどうあったらよいかを考えた方が、今日本のなすべき事が見えてくるのではないかと考える。多くの人が共感できる50年後の日本の姿を考えてみよう。物質的かつ精神的に豊かで、全ての日本国民が自由と平和を享受し、世界中の人々が日本や日本人に親しみと尊敬を持ち、一度は訪れたいとか暮らしたいと思われる国になることではないだろうか。そのような国になっていくためのキーワードは「経済の持続発展」「文化や伝統の尊重」「世界への貢献」「主体性のある国家方針」であろう。経済的には、アメリカとの関係の維持、東アジア共同体構想、自由貿易の推進、グローバル化をさらに進めていくことが重要であろう。世界への貢献や、主体性のある国家方針に関しては、日本は今までのように経済援助だけで物言わぬ国ではすまないようになってきている。正しいことは正しいとはっきり主張できるようにならなければならない。そのためには、これを裏付ける何らかのパワーが必要である。ソフト・パワーという概念が近年示されている。軍事力や物ではなく、よい理念やよい文化により相手に尊敬され共感を持たれる事により自分たちと同じ方向に人を動かす力がソフト・パワーである。ソ連が崩壊したのもこのソフト・パワーによると考えられている。自由、民主主義、人権尊重は当然のことである。さらに日本は自らの経験を生かし、防災や災害対策、環境問題、保健医療といった分野でリーダーシップをもっと発揮していくべきと考える。経済的な面はもちろん専門的な知識、人々、組織を作ってできるだけ世界に貢献できるようにしていきたい。また日本の伝統、現在の文化は世界に誇れるものが多く、人的および情報の交流を盛んに行い広く世界にアピールをしたい。人的交流は日本人が様々な分野で活躍をしたり、国際機関や先ほどのべた分野で世界に貢献をすることも大切であり、そのための教育の充実も重要な課題である。また人の受け入れも大事で、観光の受け入れ、留学生の受け入れ、ビジネスでの受け入れ、EPA を活用しての人の移動の促進も積極的に行っていく必要がある。50年後は世界中で日本人が活躍しており、世界中の人が憧れる国になっていることを心から願いたい。